

商工会議所 LOBO (早期景気観測)

2020年3月調査結果

2020
3

新型コロナウイルスによる経営への影響

9割以上の企業で影響あり（懸念含む） 既に影響が生じている企業は前月の約4倍と大幅増

- 新型コロナウイルスによる経営への影響について、「影響が生じている」は2020年2月調査から33.1ポイント増の44.4%、「長期化すると影響が出る懸念がある」は同4.7ポイント減の47.7%となった。なお、「影響が生じている」と回答した企業の割合を業種別にみると、小売業が56.6%で最も多く、サービス業が56.1%が続いた。
- 具体的な影響の内容としては、「製品・サービスの受注・売上減少、客数減少」が72.7%で最も多かった。次いで、「イベント・商談会等の延期・中止に伴う受注・販売機会の喪失」が42.5%、「従業員や顧客の感染防止対策等に伴うコスト増」が26.1%となった。
- 全体の92.1%の企業で経営への影響が生じている、または長期化した場合に影響が生じる懸念があるという結果となった。特に「影響が生じている」と回答した企業の割合は前月の約4倍と大幅に増加。2月調査ではインバウンドの低迷やサプライチェーンの混乱に関する声が多く聞かれたが、3月調査ではこれらに加え、イベント等の自粛に伴う影響を指摘する声が幅広い業種から寄せられた。

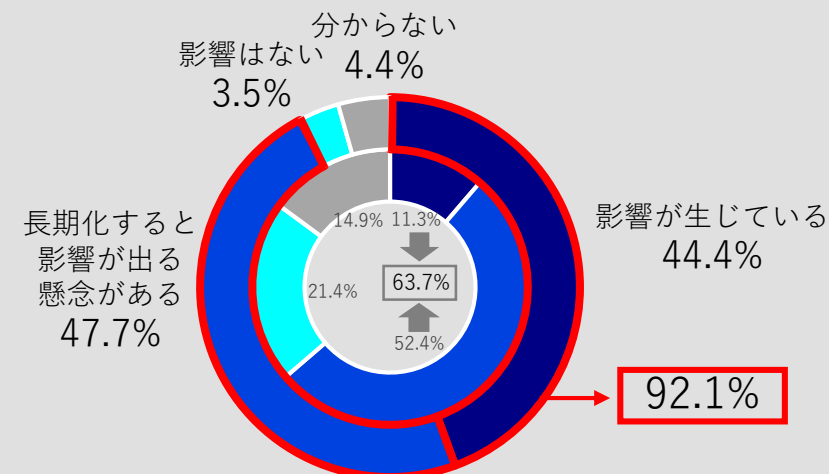


中小企業の声

- 3月に創業祭を実施したが、来客数は予想の半分以下であった。また、4月に出席予定だった合同展示会も中止になってしまい、販売計画の見直しを迫られている
(新宮 電気機械器具小売業)
- 人手不足対策として省力化のための設備投資を検討していたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う経営不安が大きく、計画の変更を余儀なくされている
(蕨 非鉄金属製造業)

経営への影響

※円グラフの外側が2020年3月調査、内側が2020年2月調査



<参考>「影響が生じている」と回答した企業の割合（業種別）

建設業	製造業	卸売業	小売業	サービス業
18.7%	37.4%	48.9%	56.6%	56.1%

具体的な影響の内容（懸念含む）

※「影響が生じている」・「長期化すると影響が出る懸念がある」企業が対象
【複数回答・上位7項目】

製品・サービスの受注・売上減少、客数減少	72.7%
イベント・商談会等の延期・中止に伴う受注・販売機会の喪失	42.5%
従業員や顧客の感染防止対策等に伴うコスト増	26.1%
サプライチェーンへの打撃による納期遅れ	24.8%
資金繰りの悪化	23.1%
為替や株価の変動に伴う消費マインドの悪化	21.4%
小中高校等の一斉休校への対応に伴う影響	17.5%

2019年度の所定内賃金（正社員）の動向

賃上げを実施する企業が63.6% 賃上げ実施企業のうち、防衛的な賃上げが7割弱

- 2019年度に正社員の所定内賃金の引き上げを実施した企業は2019年3月調査から1.5ポイント減の63.6%、賃金の引き上げは行わない企業は同1.5ポイント増の36.4%となった。賃上げを実施した企業の内訳では、「業績が改善しているため賃上げを実施（前向きな賃上げ）」が20.8%で同3.5ポイント減少、「業績の改善がみられないが賃上げを実施（防衛的な賃上げ）」が42.8%で同2.0ポイント増加した。
- 前向きな賃上げ・防衛的な賃上げを実施した企業を業種別にみると、防衛的な賃上げの割合は5業種中3業種（製造業、卸売業、小売業）で増加した。なお、減少した2業種（建設業、サービス業）においても、前向きな賃上げの増加幅は小幅にとどまっており、前向きな賃上げ傾向が強まっているとはいえない。
- 2019年度に賃上げを実施した企業は、前年度調査から減少した。賃上げ企業の7割弱は防衛的な賃上げであり、業績が厳しいなかで賃上げを行っている中小企業の実態がうかがえる。

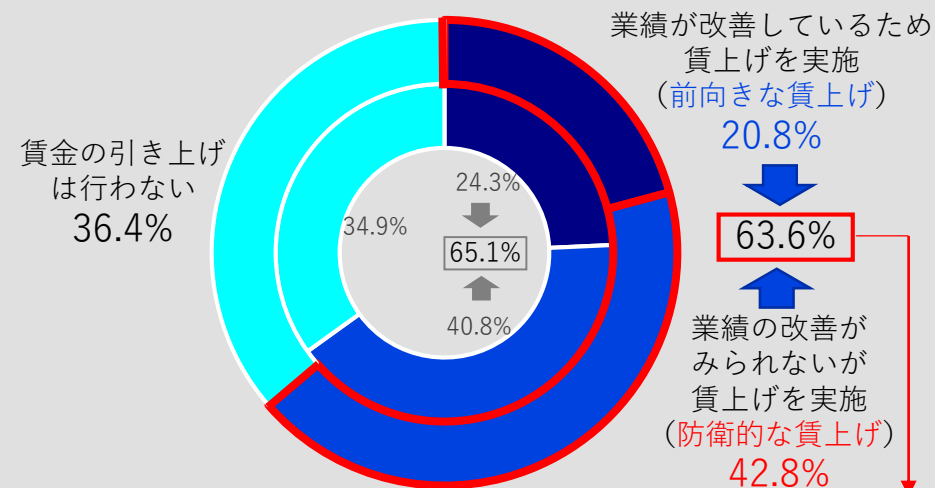


中小企業の声

- 働き方改革および従業員確保のため、賃金規定を含む就業規則の見直しを実施。結果として、大幅なベースアップとなり、今後不安もあるが、人材流出を防ぐためには仕方がないと考えている（札幌 管工事業）
- 業績改善に伴う賃上げを実施したものの、新型コロナウイルスの影響による売上減少で、きわめて厳しい状況（名古屋 旅館業）

2019年度の所定内賃金の動向（全産業）

※円グラフの外側が2020年3月調査、内側が2019年3月調査



【参考：賃上げ企業を100とした場合の前向きな賃上げと防衛的な賃上げの割合】

前向きな賃上げ	32.7%	防衛的な賃上げ	67.3%
---------	-------	---------	-------

前向きな賃上げ・防衛的な賃上げを実施した企業の割合（業種別）

	前向きな賃上げ	前年比	防衛的な賃上げ	前年比
全業種	20.8%	▲3.5	42.8%	+2.0
建設業	35.7%	+0.8	38.3%	▲3.9
製造業	18.0%	▲11.2	53.9%	+11.8
卸売業	21.4%	▲7.3	46.9%	+3.6
小売業	13.9%	+0.8	37.1%	+2.4
サービス業	18.6%	+0.1	36.4%	▲5.5

2020年3月の動向

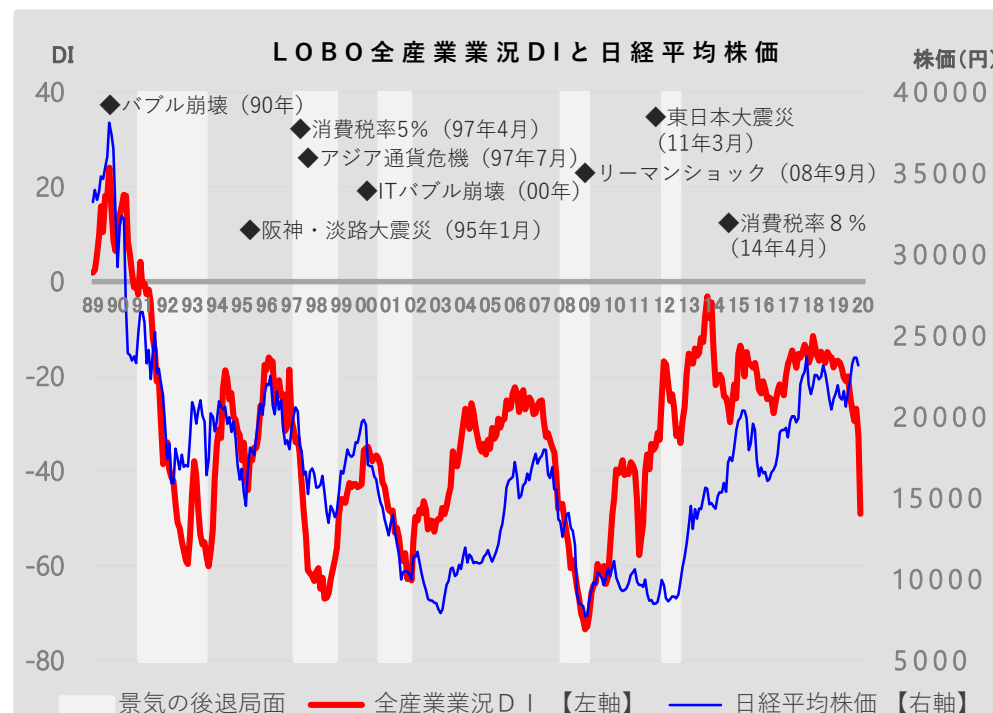
業況DIは、過去最大の悪化幅を記録 先行きは、新型コロナウイルス流行で不安広がる

● 全産業合計の業況DIは、▲49.0（前月比▲16.4ポイント）

- 新型コロナウイルス流行の影響により、インバウンドを含む観光需要の減少に加え、外出の自粛や消費マインドの低下、イベントの中止等に伴う相次ぐキャンセルにより、客足が激減した宿泊業や飲食業、観光関連業を中心とするサービス業や小売業の業況感が大幅に悪化した。また、サプライチェーンの混乱や部品、資材等の調達難による生産活動への影響も続いており、新型コロナウイルスの世界的な流行による世界経済の先行き不透明感が広く業況の押し下げ要因となっており、中小企業の景況感は1989年4月調査開始以来、過去最大の悪化幅（※）を記録した（※これまでは、2011年4月時の▲11.8ポイント）。

● 先行き見通しDIは、▲56.5（今月比▲ 7.5ポイント）

- 世界的な新型コロナウイルスの流行拡大に伴うインバウンドを含む観光需要の減少やサプライチェーン・生産活動への影響に加え、消費マインドの低迷、消費税率引上げ、人手不足による人件費の上昇、原材料費の上昇、コスト増加分の価格転嫁の遅れ、世界経済の動向など不透明感が増す中、中小企業の業況感は2011年6月以来のマイナス50台が見込まれる厳しい状況。



業況DI（※DI＝「好転」の回答割合－「悪化」の回答割合）

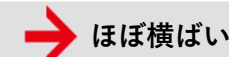
	2019年	2019年			2020年			先行き 見通し
	3月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4～6月
全産業	▲ 16.9	▲ 24.1	▲ 26.8	▲ 29.4	▲ 26.8	▲ 32.6	▲ 49.0	▲ 56.5
建設	▲ 5.8	▲ 7.9	▲ 6.9	▲ 12.8	▲ 10.4	▲ 13.0	▲ 18.6	▲ 33.0
製造	▲ 16.6	▲ 25.3	▲ 28.5	▲ 35.8	▲ 31.1	▲ 41.5	▲ 51.7	▲ 55.7
卸売	▲ 22.4	▲ 26.9	▲ 29.4	▲ 31.4	▲ 28.9	▲ 37.5	▲ 53.1	▲ 62.2
小売	▲ 29.5	▲ 38.6	▲ 42.4	▲ 40.4	▲ 38.0	▲ 39.5	▲ 58.9	▲ 65.5
サービス	▲ 11.7	▲ 20.4	▲ 23.8	▲ 23.9	▲ 23.4	▲ 28.6	▲ 55.8	▲ 62.1

業種別の動向

前月と比べたDI値の動き



改善



ほぼ横ばい



悪化



深刻な人手不足の影響が続くほか、新型コロナウイルス流行の影響に伴い、中国で生産されている住宅設備機器や建築資材などの納品遅れ・欠品の影響が強く、悪化。今後の設備投資意欲の減退を懸念する声も多く聞かれた。

- 「工事現場で働く社員や作業員が新型コロナウイルスに感染することを最も懸念している。感染者が出れば工事を中断せざるを得ず、工期が延びればその分のコスト増の影響も大きい。手洗いやうがいを徹底するようにしているが、現場は濃厚接触に近い状態での作業もあり、不安感は拭えない」（一般工事業）
- 「新型コロナウイルス流行の影響に伴う生産・物流の混乱により、中国で生産されていたシステムキッチンや洗面化粧台、トイレ、ユニットバス等の住宅設備機器の納品に遅れが出ている。竣工時期に影響を及ぼす可能性があり、なんとか調達できないか試行錯誤を続けている」（管工事業）



新型コロナウイルスの流行が、工作機械や自動車、産業用機械関連の生産活動に影響を与えているほか、イベントの自粛等による需要低迷や休校措置により給食関連の受注がキャンセルされた飲食料品関連が大きく下押しし、悪化。また、物流の混乱による部品や資材の調達難を指摘する声が幅広い業種から聞かれた。

- 「米中貿易摩擦の影響により受注が減少していたが、新型コロナウイルスの流行が追い打ちとなり、売上の減少が続いている。各国で入国制限が始まり、原材料の調達やコスト増への影響は必至。また、中国向け製品の更なる売上減少は避けられず、不安材料が多い」（計量器測定器等製造業）
- 「物産展等の催事やイベントの中止により3月の売上が激減し、ほぼゼロとなった。今後の見通しが全く立たず、資金面での不安が大きい」（食料品製造業）



新型コロナウイルス流行の影響により宿泊業や外食、給食等の需要が低迷した農畜水産物・飲食料品関連が全体を押し下げ、悪化。また、建設業関連の業種からは、中国で生産される部品や資材の納品遅れ・欠品を指摘する声が聞かれた。

- 「中国で生産されている資材が入荷せず、売上・採算ともに大きく悪化した。諸外国の入国規制により海外出張が難しくなり、業務に大きな支障が出ている。景気の悪化により取引先の倒産等が起きないか、懸念している」（建築材料卸売業）
- 「給食や旅館、外食産業からの引き合いが減少し、市場価格が月を追うごとに下落し続けており、売上が激減している。予想以上の落ち込みであり、今後の状況次第では資金繰りにも影響が及ぶ」（農畜産水産物卸売業）



新型コロナウイルスの影響に伴うマスクや除菌関連商品、トイレットペーパー等の紙類、食料品、日常消耗品等の買いための動きが一部に見られ、一時的な需要増はあったものの、インバウンドの減少や、国内客の外出自粛を受けた客足の著しい落ち込み、物産展や催事等の中止の影響により売上が激減し、大幅に悪化。

- 「新型コロナウイルス流行の影響により、食料品のまとめ買い傾向が見られたものの、外出を控える動きの広がりを受けた客数減少や営業時間の短縮により、生鮮類を中心に売上は落ち込み、全体の売上は2割減少した。資金繰りが非常に厳しくなっており、長期化すれば倒産もありうる」（スーパー）
- 「各種イベントの中止や延期により催事関係の受注が無くなり、売上・採算ともに悪化した一方、自宅用の生花の需要が若干伸びている」（花・植木小売業）



新型コロナウイルスの影響によりインバウンドを含む観光需要の激減や外出を控える動きが広がる中、団体旅行客や国内客からのキャンセルが相次いだ宿泊業や飲食業の売上が大幅に悪化し、調査開始以来、過去最大の悪化幅（※）を記録（※今月は▲27.2ポイントの悪化。これまでは2011年4月時の▲14.9ポイント）。

- 「歓送迎会や謝恩会のシーズンを迎え繁忙期のはずが、宴会や披露宴、各種イベント、会議などのキャンセルが相次ぎ、売上は前年比3割程度にまで落ち込んでいる。予約状況に応じた営業時間の短縮や社員の残業の抑制によりコスト減に努めているが、流行が長期化すれば経営悪化は避けられない」（飲食業）
- 「団体の宿泊客や宴会の予約の9割がキャンセルされ、例年の3分の1程度の売上。収束に6月頃までかかれば廃業も視野にいれなければならない」（宿泊業）

ブロック別の動向

前月と比べたDI値の動き



北海道

北海道は、悪化。建設業では、技術者などの根強い人手不足の影響から採算が悪化したほか、新型コロナウイルスの影響により、資材の入荷が滞り、工期遅れを指摘する声が聞かれた。製造業では、イベントの相次ぐ中止や給食等の売上減少の影響が見られ、農畜水産物や飲食料品を中心に売上・採算ともに悪化した。小売業では、入国制限に伴い、中国や韓国などインバウンド需要が減少し、百貨店や専門店を中心に全体を押し下げた。



東北

東北は、悪化。新型コロナウイルスの影響に伴う観光需要の低迷やイベント等の自粛により、サービス業では、宿泊業、飲食業を中心に客足が大幅に減少し、売上が悪化したほか、関連する製造業、卸売業でも売上悪化となった。また、小売業では、百貨店や専門店、商店街で売上が悪化したほか、マスクやアルコール除菌など衛生関連商品や、中国からの商品の納品遅れ・欠品の影響を指摘する声が聞かれた。



北陸信越

北陸信越は、悪化。新型コロナウイルスの影響により、製造業では、産業用機械や金属製品関連で国内外からの受注が減少したほか、飲食業や宿泊業など、サービス業の低迷の影響を受けた飲食料品関連で売上が悪化した。また、卸売業では、暖冬に加え、外出の自粛に伴う客足の減少の影響により、衣料品や飲食料品を中心に受注が伸び悩み、売上が悪化した。



関東

関東は、悪化。新型コロナウイルスの影響に伴い、製造業では、飲食料品に加え、産業用機械や自動車関連で受注の減少や設備投資を控える動きが見られ、売上が悪化した。また、小売業では、日常消耗品を中心に一時的に売上が伸びたものの、インバウンドを含む観光需要の減少により、百貨店や専門店で売上が悪化したほか、サービス業では、宿泊業や飲食業、臨時休業の影響を受けたレジャー関連業を中心に売上が伸び悩んだ。



東海

東海は、悪化。新型コロナウイルスの影響により、製造業では、国内外で受注が落ち込み、自動車や工作機械関連を中心に全体を押し下げたほか、関連する卸売業で売上が悪化した。また、宿泊業、飲食業を中心としたサービス業では、中国からの団体旅行客や国内客からの予約のキャンセルが相次ぎ、売上が悪化するなか、従業員の人件費が大きな負担となり、採算が悪化した。



関西

関西は、悪化。新型コロナウイルスの影響に伴い、小売業では、トイレットペーパーなどの日常消耗品の売が一時的に増加したものの、インバウンドを含む観光需要の減少やイベントの中止、営業時間の短縮などの影響が大きく、百貨店や専門店などで売上が悪化した。また、サービス業では、宿泊業や飲食業を中心に客足が大きく減少したほか、乗客の減少や、衣料品や機械関連などの輸出入の減少により運輸業で売上が悪化した。

ブロック別の動向

前月と比べたDI値の動き



中国

中国は、悪化。製造業では、中国経済の減速等を背景とした鉄鋼関連の伸び悩みに加え、新型コロナウイルスの影響により、産業用機械を中心に受注が減少し、売上が悪化した。また、小売業では、イベントの中止や営業時間の短縮等の影響により、百貨店や専門店を中心に売上が伸び悩んだほか、サービス業では、国内外からの観光需要の減少や、歓送迎会や謝恩会のキャンセル等の影響を受け、売上・採算ともに悪化となった。



四国

四国は、悪化。新型コロナウイルスの影響により、建設業では、中国からの部品・資材の調達遅れに伴う受注機会の損失を指摘する声が聞かれ、売上が悪化した。また、サービス業では、インバウンド需要の減少のほか、国内客からのキャンセルが相次ぎ、宿泊業、飲食業を中心に売上が悪化した。小売業では、商品の納品遅れや欠品に伴う販売機会の損失や、外出の自粛に伴う消費の低迷により、売上が伸び悩んだ。



九州

九州は、悪化。新型コロナウイルスの影響に伴い、サービス業では、インバウンド需要の減少に加え、国内客からのキャンセルが相次いだほか、イベントの中止や営業時間の短縮等の影響を指摘する声が多く、宿泊業、飲食業、レジャー関連業で売上が悪化した。また、関連する製造業、卸売業では、農畜水産物や飲食料品を中心に売上が悪化した。小売業からは、感染防止に伴うコストの増加を指摘する声が聞かれた。

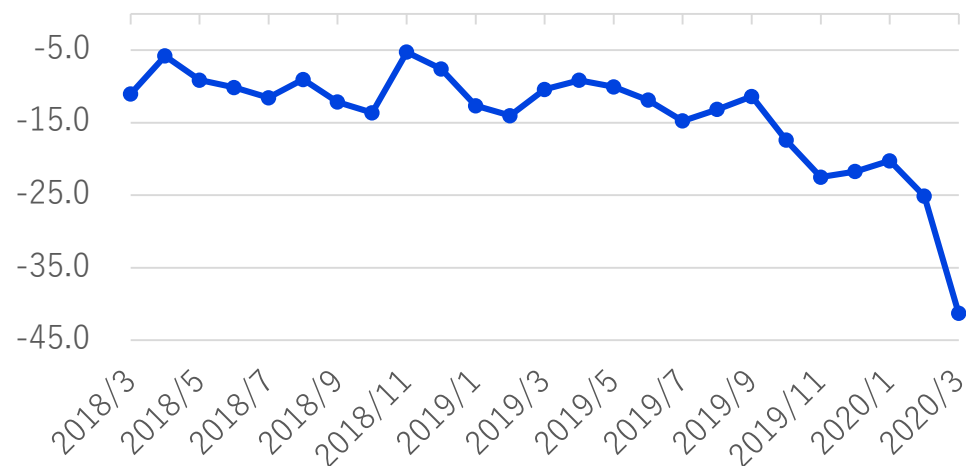
	2019年 3月	2019年 10月			2020年 1月			先行き 見通し 4～6月
			11月	12月		2月	3月	
全 国	▲ 16.9	▲ 24.1	▲ 26.8	▲ 29.4	▲ 26.8	▲ 32.6	▲ 49.0	▲ 56.5
北 海 道	▲ 21.9	▲ 13.5	▲ 17.4	▲ 20.2	▲ 19.8	▲ 30.6	▲ 51.4	▲ 58.4
東 北	▲ 22.7	▲ 39.3	▲ 34.7	▲ 33.7	▲ 31.4	▲ 35.4	▲ 49.3	▲ 57.7
北陸信越	▲ 19.3	▲ 27.6	▲ 30.4	▲ 36.7	▲ 33.5	▲ 34.9	▲ 58.2	▲ 62.4
関 東	▲ 15.8	▲ 25.3	▲ 25.5	▲ 28.9	▲ 27.8	▲ 31.3	▲ 44.1	▲ 54.9
東 海	▲ 11.2	▲ 28.5	▲ 35.4	▲ 33.2	▲ 30.4	▲ 35.4	▲ 48.7	▲ 49.8
関 西	▲ 14.9	▲ 26.0	▲ 28.2	▲ 30.4	▲ 18.0	▲ 31.2	▲ 45.9	▲ 55.0
中 国	▲ 23.4	▲ 21.1	▲ 30.0	▲ 33.9	▲ 38.1	▲ 39.4	▲ 56.9	▲ 58.5
四 国	▲ 12.9	▲ 11.8	▲ 15.2	▲ 19.2	▲ 20.3	▲ 27.8	▲ 43.4	▲ 57.4
九 州	▲ 17.2	▲ 18.4	▲ 22.3	▲ 29.4	▲ 24.0	▲ 29.5	▲ 52.1	▲ 59.8

参考：DI時系列表

売上DI

(※DI=「増加」の回答割合－「減少」の回答割合)

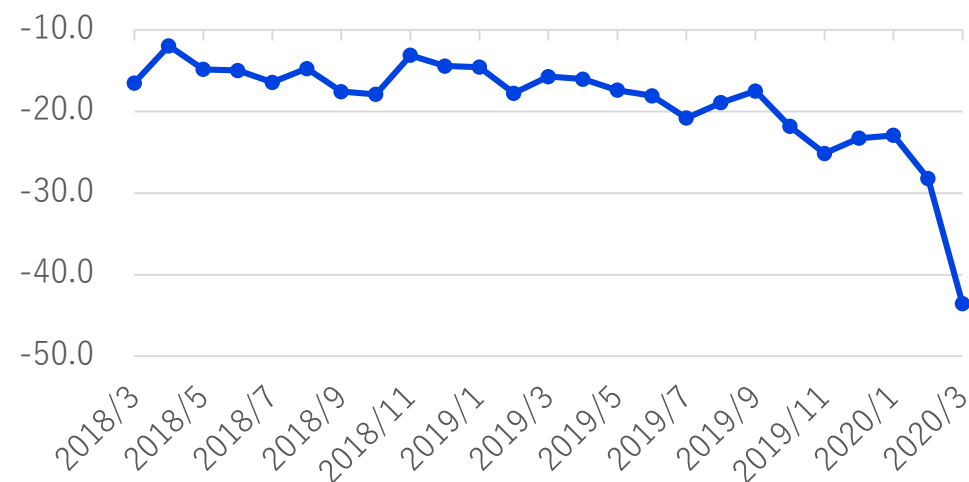
	2019年	2019年			2020年			先行き 見通し
	3月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4～6月
全産業	▲ 10.4	▲ 17.4	▲ 22.5	▲ 21.7	▲ 20.3	▲ 25.1	▲ 41.3	▲ 54.4
建設	0.0	▲ 2.4	▲ 0.9	▲ 0.9	▲ 10.1	▲ 8.5	▲ 12.3	▲ 25.5
製造	▲ 5.0	▲ 16.7	▲ 24.0	▲ 27.7	▲ 25.7	▲ 34.0	▲ 47.4	▲ 56.5
卸売	▲ 13.3	▲ 18.1	▲ 22.3	▲ 26.4	▲ 20.9	▲ 20.5	▲ 42.3	▲ 58.1
小売	▲ 28.7	▲ 35.8	▲ 41.9	▲ 35.0	▲ 29.2	▲ 35.2	▲ 47.3	▲ 63.6
サービス	▲ 6.0	▲ 12.5	▲ 18.9	▲ 16.0	▲ 14.1	▲ 20.7	▲ 48.4	▲ 61.5



採算DI

(※DI=「好転」の回答割合－「悪化」の回答割合)

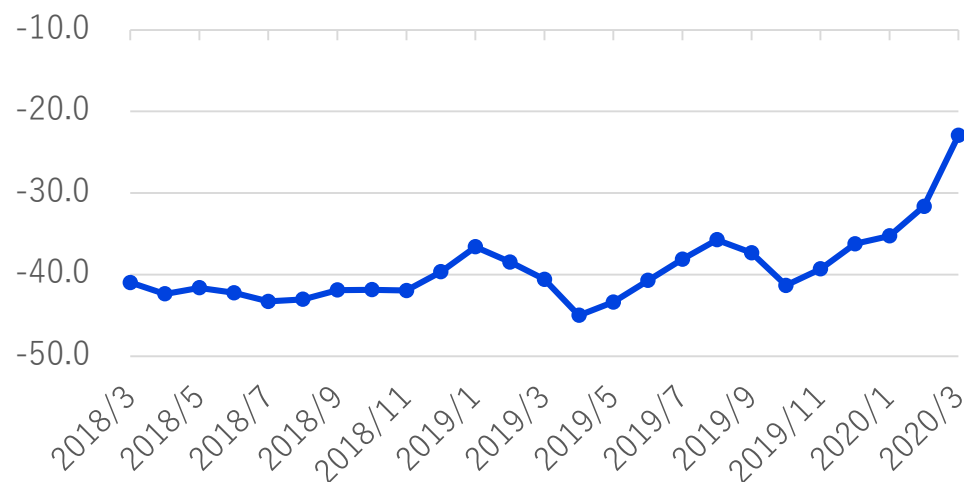
	2019年	2019年			2020年			先行き 見通し
	3月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4～6月
全産業	▲ 15.7	▲ 21.8	▲ 25.1	▲ 23.3	▲ 22.9	▲ 28.2	▲ 43.5	▲ 52.4
建設	▲ 6.8	▲ 11.8	▲ 9.6	▲ 9.2	▲ 13.3	▲ 16.8	▲ 17.7	▲ 29.7
製造	▲ 17.5	▲ 18.5	▲ 25.3	▲ 27.7	▲ 29.0	▲ 33.4	▲ 44.3	▲ 52.0
卸売	▲ 8.1	▲ 21.6	▲ 23.1	▲ 26.0	▲ 21.8	▲ 25.4	▲ 44.8	▲ 55.2
小売	▲ 24.3	▲ 37.5	▲ 37.7	▲ 31.7	▲ 27.8	▲ 34.4	▲ 50.1	▲ 58.9
サービス	▲ 16.0	▲ 18.9	▲ 25.5	▲ 19.7	▲ 19.9	▲ 26.4	▲ 53.3	▲ 60.6



参考：DI時系列表

仕入単価DI (※DI=「下落」の回答割合-「上昇」の回答割合)

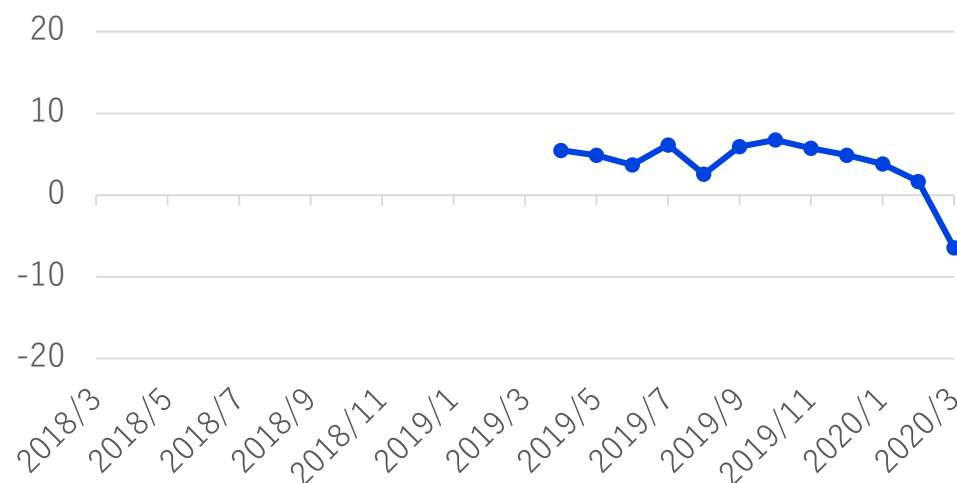
	2019年 3月	2019年 10月	11月	12月	2020年 1月	2月	3月	先行き 見通し 4~6月
全産業	▲ 40.6	▲ 41.3	▲ 39.3	▲ 36.2	▲ 35.3	▲ 31.6	▲ 22.9	▲ 21.5
建設	▲ 43.1	▲ 48.5	▲ 44.6	▲ 43.4	▲ 44.6	▲ 39.9	▲ 36.9	▲ 37.8
製造	▲ 51.5	▲ 40.6	▲ 38.8	▲ 37.4	▲ 31.7	▲ 27.9	▲ 19.4	▲ 14.8
卸売	▲ 35.7	▲ 33.0	▲ 35.7	▲ 34.7	▲ 29.7	▲ 28.6	▲ 22.8	▲ 24.5
小売	▲ 33.7	▲ 40.0	▲ 40.0	▲ 31.2	▲ 31.7	▲ 29.4	▲ 22.9	▲ 20.8
サービス	▲ 36.3	▲ 42.0	▲ 37.4	▲ 35.3	▲ 37.9	▲ 33.2	▲ 17.5	▲ 16.8



販売単価DI (※DI=「上昇」の回答割合-「下落」の回答割合)

	2019年 3月	2019年 10月	11月	12月	2020年 1月	2月	3月	先行き 見通し 4~6月
全産業	—	6.8	5.7	4.9	3.8	1.7	▲ 6.4	▲ 9.4
建設	—	7.9	6.9	5.8	2.0	4.1	0.9	▲ 2.4
製造	—	3.6	3.6	3.0	3.5	1.4	▲ 4.5	▲ 6.6
卸売	—	5.3	7.1	9.9	5.0	▲ 0.9	▲ 8.7	▲ 9.5
小売	—	3.0	3.5	0.9	1.9	▲ 1.7	▲ 6.9	▲ 10.4
サービス	—	12.7	8.2	7.1	6.3	4.2	▲ 11.6	▲ 15.6

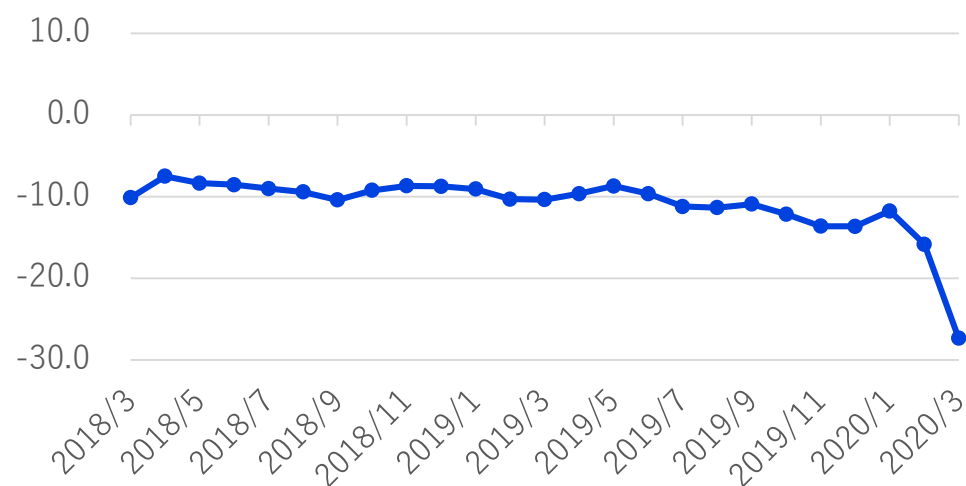
※2019年4月より新たに調査を開始したため、2019年4月以前の数値は存在しない。



参考：DI時系列表

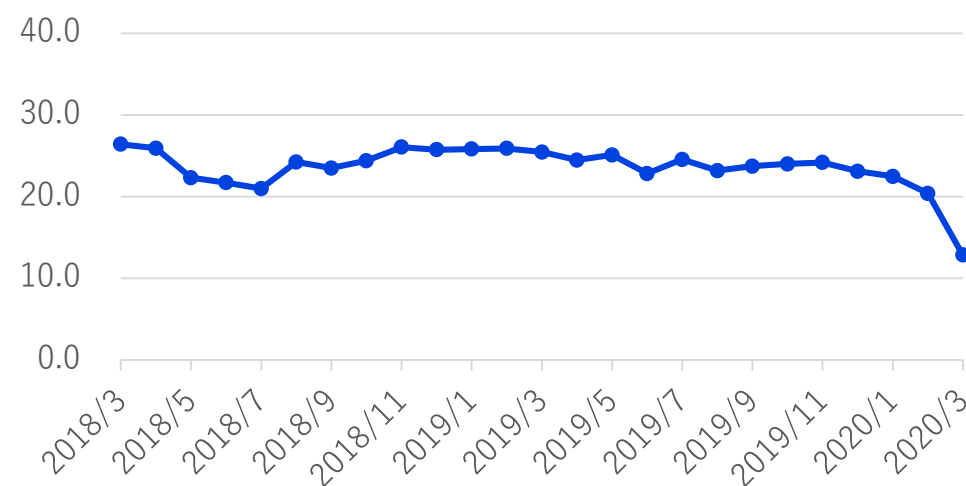
資金繰りDI (※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合)

	2019年 3月	2019年 10月	11月	12月	2020年 1月	2月	3月	先行き 見通し 4~6月
全産業	▲ 10.4	▲ 12.1	▲ 13.6	▲ 13.6	▲ 11.8	▲ 15.8	▲ 27.3	▲ 34.2
建設	▲ 2.7	▲ 5.0	▲ 4.2	▲ 4.6	▲ 4.3	▲ 5.7	▲ 9.0	▲ 14.4
製造	▲ 11.4	▲ 9.8	▲ 12.3	▲ 13.1	▲ 13.2	▲ 19.2	▲ 25.6	▲ 30.9
卸売	▲ 9.5	▲ 12.3	▲ 10.9	▲ 12.0	▲ 9.6	▲ 14.3	▲ 24.9	▲ 32.0
小売	▲ 17.2	▲ 19.7	▲ 21.5	▲ 21.1	▲ 15.0	▲ 20.1	▲ 32.4	▲ 42.6
サービス	▲ 9.0	▲ 12.7	▲ 15.6	▲ 14.5	▲ 13.4	▲ 16.0	▲ 37.7	▲ 44.2



従業員DI (※DI=「不足」の回答割合-「過剰」の回答割合)

	2019年 3月	2019年 10月	11月	12月	2020年 1月	2月	3月	先行き 見通し 4~6月
全産業	25.5	24.0	24.2	23.1	22.5	20.4	12.9	12.2
建設	39.7	40.6	40.7	38.5	39.1	36.1	32.1	31.5
製造	14.4	14.7	10.9	9.5	10.1	10.1	6.2	2.9
卸売	16.2	19.8	23.5	19.4	17.6	15.6	7.1	7.9
小売	24.3	19.4	21.1	21.8	22.7	17.9	15.1	14.9
サービス	32.3	27.7	29.2	29.4	25.7	24.7	8.0	8.8



調査要領

LOBOとは

「CCI (CHAMBER OF COMMERCE AND INDUSTRY) - QUICK SURVEY SYSTEM OF **LOCAL BUSINESS OUTLOOK**」
(商工会議所早期景気観測) からとった略称

目的

商工会議所のネットワークのもと、地域や中小企業が「肌で感じる足元の景気感」を全国ベースで毎月調査するとともに、月毎にテーマを設定して調査（例：設備投資や採用・賃金の動向等）を実施・公表することにより、企業を取り巻く経営環境や直面する課題等の現状を示すデータとして、経済対策に関する政策提言・要望活動などに活用することを目的に1989年4月より調査開始。

調査方法

調査協力商工会議所職員（含む経営指導員）による調査票配布・回収

調査項目

業況・売上・採算・資金繰り・仕入単価・販売単価・従業員の前年同月比（前年同月と比較した今月の水準）と向こう3カ月の先行き見通し（今月水準と比較した向こう3カ月（当月を除く）の先行き見通し）、自社が直面している経営上の問題など

調査対象数

配布先：全国335商工会議所の会員 2,630企業

（有効回答数2,037企業[回答率77.5%]）

（内訳）

建設業：430（有効回答数333企業[回答率77.4%]）

製造業：635（有効回答数515企業[回答率81.1%]）

卸売業：312（有効回答数241企業[回答率77.2%]）

小売業：550（有効回答数423企業[回答率76.9%]）

サービス業：703（有効回答数525企業[回答率74.7%]）

調査期間

2020年3月13日～19日

公表日

2020年3月31日

※DI値（景況判断指数）について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりの意味する。

DI = （増加・好転などの回答割合）－（減少・悪化などの回答割合）

今月の調査協力商工会議所一覧

中国ブロック

鳥取 米子 倉吉 境港 大田
江津 倉敷 井原 備前 新見
福山 三原 府中 三次 大竹
因島 東広島 廿日市 下関 宇部
防府 徳山 岩国 新南陽

北陸信越ブロック

新潟 上越 長岡 柏崎 三条
村上 十日町 加茂 五泉 亀田
富山 高岡 魚津 滑川 金沢
小松 輪島 加賀 珠洲 白山
上田 長野 松本 岡谷 諏訪
伊那 塩尻 信州中野 大町
茅野 飯山

北海道ブロック

函館 札幌 旭川 室蘭 帯広 北見 岩見沢 根室 士別
富良野 名寄 遠軽 江別 芦別 夕張 余市 登別

東北ブロック

青森 八戸 十和田 むつ 盛岡 釜石 一関 宮古
花巻 奥州 北上 大船渡 久慈 仙台 石巻 気仙沼
古川 秋田 能代 大館 湯沢 山形 酒田 鶴岡
米沢 長井 福島 郡山 会津若松 いわき 白河
原町 会津喜多方 相馬 須賀川 二本松

九州ブロック

福岡 北九州 直方 八女 大川
朝倉 中間 佐賀 伊万里 鳥栖
鹿島 長崎 佐世保 諫早 熊本
荒尾 人吉 水俣 本渡 別府
大分 日田 臼杵 津久見 都城
宮崎 延岡 小林 鹿児島 川内
鹿屋 那覇 沖縄

関東ブロック

水戸 土浦 古河 日立 石岡 下館 結城
ひたちなか 宇都宮 足利 鹿沼 小山 日光 大田原
佐野 真岡 高崎 前橋 桐生 伊勢崎 沼田 富岡
渋川 川越 川口 熊谷 さいたま 秩父 本庄 深谷
蕨 草加 越谷 銚子 千葉 船橋 市川 松戸
茂原 野田 館山 東金 柏 習志野 成田 八千代
東京 八王子 武蔵野 青梅 立川 むさし府中 町田
多摩 横浜 横須賀 川崎 小田原箱根 平塚 藤沢
厚木 鎌倉 三浦 相模原 大和 海老名 甲府 静岡
浜松 沼津 三島 富士 磐田 島田 焼津 藤枝
袋井

四国ブロック

徳島 小松島 吉野川 高松 丸亀
坂出 観音寺 多度津 松山
宇和島 今治 八幡浜 新居浜
四国中央 西条 伊予 大洲 高知
土佐清水

関西ブロック

福井 鯖江 大津 近江八幡 草津 京都 大阪
堺 東大阪 岸和田 貝塚 八尾 豊中 池田
泉佐野 高石 神戸 姫路 尼崎 明石 伊丹
相生 赤穂 三木 洲本 豊岡 高砂 龍野
加古川 小野 宝塚 奈良 大和高田 生駒 橿原
和歌山 海南 田辺 新宮 御坊 紀州有田

東海ブロック

岐阜 大垣 多治見 中津川 土岐 瑞浪 恵那
各務原 美濃加茂 名古屋 岡崎 豊橋 半田 一宮
瀬戸 蒲郡 刈谷 豊田 碧南 津島 春日井 常滑
江南 小牧 犬山 大府 四日市 津 伊勢 松阪
桑名 上野 熊野